

神から与えられた妻と結婚の証し

聖書教会連盟 泉野聖書教会牧師 中西明

私の妻は「リベカ」というクリスマスチャン結婚支援の働きをしている。私自身は、私の牧会する教会での働きがあり、妻が行う結婚支援の働きには全く携わっていないが、結婚支援の働きをする妻を常に祝福し応援している。



「二十二年間感謝を忘れずに」

私たち夫婦は、二〇〇〇年九月十一日、私が二十九歳、妻が二十七歳の時に結婚し、今年（二〇二二年）九月十一日で結婚二十二年を迎えた。その間、三人の子どもが与えられ、現在、長女と次女は県外で大学生活を送っており、現在、中学生の長男と三人暮らしをしている。私の両親は滋賀県に住んでおり、妻の両親は今年の三月から近くの借家に引っ越して来て、妻が両親の面倒をいろいろと見ている。

これまでの結婚生活を振り返る時、私に妻を与えてくださり、私を結婚へと導かれ、二十二年間共に結婚生活を送ってこられたことを、神様に祈りを通して感謝している。また、妻にも今日まで共に結婚生活をしてきたことへの感謝の気持ちを伝えていく。私が結婚生活で大切にしていること、常に心がけていることは、結婚と伴侶が神から与

えられたことを忘れずに感謝することである。

「救われたきっかけは失恋」



私は一九九四年、二十四歳の時に信仰を持ち、クリスマスチャンとなった。きっかけは失恋であった。大学生の時、片思いで好意を寄せていた女性に交際を申込み、断られたことで心にポツカリ穴が空き、そのことをきっかけに自分を見つめ直し、「本当の幸せとは何だろうか?」と、深く考えるようになった。そんな時、クリスマスチャン作家の三浦綾子さんの本を読んで、聖書の言葉、イエス・キリストの言葉に出会った。

「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」（ヨハネの福音書15章13節）このイエス・キリストの言葉に出会った時、「果たして自分にそのような愛があるだろうか?」と考えた。そして、すぐに自身のうちにはそのような愛がないことに気付かされた。片思いで失恋したのも、本当は彼女がいなくて自分が寂しいから「彼女が欲しい」と願い、ある意味それは自然な欲求だったとは言え、きわめて自分本位の思いであったことに気付かされた。交際する女性を、何か自分のステイタスやアクセサリーのように考え、彼女を愛するものというよりも、自分のステイタスや恋愛そのものを求めていたことに気付かされたのである。もし、

そのような思いで結婚していたら、私の結婚はうまくいっていなかったと思う。

恋愛したいと言っても、まじめな交際をしたという願いはあった。最初から、取っ替え引っ替え交際する女性を替えて恋愛したいとは思わなかったし、相手がそのような複数の男性と浮気して遊んだりする女性を求めてはいなかった。まじめな交際をするなら、生涯一人を大切に恋愛し、将来ちゃんと結婚したいという気持ちがあった。そう考えた時、クリスマスチャン女性に対して誠実に清らかなイメージを持っていた私は、それまで一度も教会に行くことがなかったにもかかわらず、将来の交際相手、結婚相手としてクリスマスチャン女性に魅力を感じた。三浦綾子さんの著書『光あるうちに』という本の中にも、「聖書を教える教会に行ってみてください」というお勧めがあり、私は教会に行きたいと願うようになった。本当の幸せとは何か、聖書から教えられるために。そして、交際相手、結婚相手を探すために（！）。

「私のための十字架」



一九九四年四月十七日、生まれて初めて教会を訪れた。石川県河北郡にある内灘聖書教会だった。実はその数週間前の日曜日に教会の近くまで行き、教会にどのような人たちが集まっているだろうか、と偵察に行っていた。教会から少し離れたところ